



伝宇佐神宮旧蔵「源氏物語図」狩野派 大分市歴史資料館

巻13「明石」

二十七歳の源氏は謹慎し、須磨・明石に退去していた。八月の十三夜、明石の君のもとにはじめて通うべく、源氏は馬に乗り入江沿いに進む。

平成30年度大分県立図書館公開講座「古典の日推進講座」第1回

続・読み継がれる 源氏物語の魅力

日時

平成30年6月30日（土）
13：30～15：00

場所

大分県立図書館 2階 視聴覚ホール

受講者

県民（定員100名）

受講料

無料

申込方法

下記申込書を県立図書館中央カウンターへ提出（電話・郵送・FAXも可）
※電話で申込みの場合、お名前と連絡先を伺い、こちらで申込書に記入します。

問合せ先

大分県立図書館 学校・地域支援課 公開講座係
〒870-0008 大分市王子西町14番1号

TEL 097-546-9978
FAX 097-546-9985



講師：浅野則子氏
（別府大学大学院文学研究科長）

キリトリセン

県立図書館 古典の日推進講座「続・読み継がれる源氏物語の魅力」申込書

氏名	ふりがな
連絡先（電話）	自宅 携帯

【職員記入欄】

受付日	
時間	
受付者	

※天候等により、中止や延期の場合がありますので、連絡先は必ず記入して下さい。
※参加不可の場合のみ、こちらから連絡します。連絡が無い場合は参加可能です。

※記入頂いた個人情報は、本講座の実施以外で使用することはありません。
※欠席される場合は事前に連絡をお願いいたします。

古典の言葉の宝庫である『源氏物語』を 明石の君を中心に読み解き、魅力に迫ります！

伝宇佐神宮旧蔵「源氏物語図」狩野派 大分市歴史資料館

巻13「明石」



二十七歳の源氏は謹慎し、須磨・明石に退去していた。
八月の十三夜、明石の君のもとにはじめて通うべく、源氏は馬に
乗り入江沿いに進む。
※源氏に従うのは稚児と従者三名が通例。

巻18「松風」



三十一歳の秋、源氏は大堰に明石の上母子を訪ねた後、桂の院
で管弦の宴を開いた。鷹狩りでこれに遅参した公達が、捕まえた
獲物の小鳥を萩の枝につけて源氏に献上した。
※源氏は屋外に居るのが本文に忠実。しかし屋敷内に座る。

昨年度の様子！



読み継がれる源氏物語の魅力

H30年1月20日(土)13:30~15:00

H30年2月10日(土)13:30~15:00

～H29担当者の受講メモから～

- 源氏物語は3部構成。
 - ・第1部は光源氏39歳までの絶頂期。
 - ・第2部は苦しくなっていく光源氏。52歳、源氏の死亡まで
 - ・第3部は光源氏の子ども世代が主人公。宇治十帖ともよばれる。
 - 「似ている」女性を追い求める光源氏
 - 和歌と返歌(同じ言葉を使って返す)和歌で頭の良さが伺える。
 - 源氏物語の一番幸せな部分は「初音」ここまでで主要な人物が出揃う。
 - 源氏の苦悩
 - ・理想の女性として育った紫の上の嫉妬
 - ・正妻として女三の宮(14歳)と結婚する源氏(39歳) 紫の上(28歳)
 - 源氏物語を読み解くポイント
 - ・女性には失望すると「出家」する
 - ・紫の上、女三の宮、明石の君、明石の君の子…4人のうち紫の上が優れている
 - ・紫の上の唯一の欠点は嫉妬深いこと
 - ・心の本音は和歌から見えてくること
 - ・紫の上は8/15に亡くなる
- ※竹取物語…月に返った日と同じ
紫式部の教養の高さ！

受講者の声(アンケート抜粋)

- 初めてこういった講座に参加しました。とても良かったです。また参加したいです。
- 源氏物語をひもとして頂き、平安時代を思い描け、良い時間を過ごせました。
- 普通の者で特に古典に詳しくはなかったのに理解できるか心配だったが、わかり易く説明していただき、よく理解できた。
- 次は予習して参加したいです！
- あつという間の1時間半、楽しかったです。
- 改めて「源氏物語」を読みたくくなりました。単なる女性遍歴ではないところを今なら読み込むことができそうな気がします。
- なかなか古典をじっくり解説付きで味わえることはありません。貴重な時間を頂きました。
- 面白く、語りにくい引き込まれました。是非、もう一度参加したいと思います。
- かけ足の源氏でしたが、大変おもしろく、わかり易かったです。
- 源氏物語は人の一生を深く考えさせられました。ありがとうございました。
- 紫の上に着目しての源氏物語は面白かったです。この続きの講座を希望します。